

公益目的事業 たたら製鉄の歴史と技術を保存、公開、実践することで日本の鉄文化を保護継承していく活動

1) 博物館等の展示 (指定管理)

① 菅谷たたら山内および周辺施設

- ・三軒長屋の令和5年度再開館イベント 令和5年4月30日(日) 無料開放
令和5年4月30日に、菅谷たたら山内の全施設修理事業完了にともなうフルオープンイベントが、雲南市教育委員会主催、財団共催で開催された。当日のイベント対応は株式会社キラキラ雲南様にご対応いただいた。当日は無料入館とし、約500名のお客様にお越しいただいた。

【主催者行事】

石飛市長挨拶、ラメールマスターズプロジェクトによる演奏、
文化財課 角田課長による山内施設の解説

山内エリア：飲食業者による出店 (マルシェ)、総合センター前：農事組合法人すがや出店

【財団対応】

朝日施設長の解説ツアーを開館時間中に2回実施、各施設での職員による説明対応、
三軒長屋での抹茶の呈茶 (来賓・一般参加者)、物販対応

事業費：職員人件費・光熱水料費は菅谷たたら山内指定管理料、式典関係は雲南市



・菅谷たたら山内総合文化調査 速報展：「菅谷たたら製の鉄用具1」

会期：令和6年2月15日～3月31日

内容：菅谷たたら山内総合文化調査の成果報告として、製鉄用具の調査成果を展示『菅谷たたら山内総合文化調査報告書3』に記載の角田徳幸氏「菅谷鉦の製鉄用具1」の内容に基づき展示を行った。上記報告は製鉄炉構築のための用具や部材の報告であり、その報告に掲載の島根県指定の製鉄用具23点の展示を行った。



菅谷たたら山内総合文化調査 速報展

菅谷鉦の製鉄用具1

2024/2/15(木)

～3/31(日)



島根県有形民俗文化財の指定をうけている菅谷鉦製鉄用具の複製が、現在進められています。今回はその最新の成果を「速報展」としてご紹介します。



会場：鉄の歴史博物館

開館時間：9時～17時（最終入館16時）/料金：一般520円・小人260円

島根県雲南市吉田町吉田2543

周：（公財）鉄の歴史村地域振興事業団 TEL.0854-74-0311

z.tetsu@f-yume.ne.jp http://tetsunokeshimura.or.jp/

報道記録（山陰中央新報 2024/3/16）

たたらの道具紹介

【雲南】雲南市吉田町吉田の製鉄の歴史博物館で地元。31日まで。の菅谷たたら山内で営まれ、同館を管理する鉄の歴史村地域振興事業団による「たたら製鉄」の道具を紹介する企画展が開かると、菅谷たたらの製鉄用具を紹介する企画展が開かると、菅谷たたらの製鉄用具など22点が並び、菅谷たたら68年に刊行した調査報告書以降、ほとんど検討されていなかった。市が2012年に始めた菅谷たたら山内の保存修理事業に合わせ、市と事業団は敷地内にあった道具の整理を進め、企画展で成果を紹介している。

炉を作る際、炉内に風を送る穴を広げるための道具「ひききり」が先端に向かって細くなる形状をしていることや、炉へ風を送る送風管に和紙や近代のものと思われる巻き紙が付着していることなどが分かる。

事業団の岩城こよみ研究員(42)は「近代の手法で再調査することは意義がある。今後の調査結果を踏まえ、展示を充実させていく」と話した。

午前9時～午後5時（入館は午後4時まで）。入館料は一般520円、小学生260円。

（山本泰平）

たたら製鉄で使われた「ひききり」(左上)などを紹介する岩城こよみ研究員。雲南市吉田町吉田、鉄の歴史博物館

・プチ展示

「吉田のたたらと人々」

会期：令和5年12月1日～令和6年3月31日

内容：吉田中学校1年生による地域学習の成果物の壁紙新聞

2 展示・整理業務

- ・常設展示の見直し：常設展示替えに向け、整理を進める（(5) 調査研究・資料収集へ）。
内藤伸記念館2階へ市保管の文化財の受け入れを準備した
- ・菅谷・鉄の歴史博物館共通：所蔵品の再リスト化、草刈り等の定期化、冬の防災訓練

・出前展示

「フイゴと鍛冶」

- ・展示物：フイゴ、パネル
- ・内容：たたら文化と道具展示
- ・対象：子供
- ・会場と期間：
 - 道の駅たたら場壺番地 8月1日～31日
 - 加茂図書館 10月3日～29日
 - 大東図書館 10月3日～29日
 - 木次図書館中 10月3日～29日



③ 入館実績

- ・菅谷たたら山内及び周辺施設

入館者数：8,832人（前年度6,972人、前年度比126%UP）

- ・鉄の歴史博物館

入館者数：4,599人（前年度4,115人、前年度比111%UP）

④ 雲南市和鋼生産たたら体験交流施設

当施設での事業運営は、下記「3）体験事業」のとおり。

2) 講座、セミナー、育成事業

① 鉄の歴史村の講演会

タイトル：鉄の歴史村講演会 第4回 菅谷たたら山内総合文化調査報告会

開催日：令和5年10月14日（土）

会場：雲南市吉田健康福祉センター

講師：（午前）高橋誠二氏、梶谷光弘氏、新野邊幸市氏
（午後）角田徳幸氏、鳥谷智文氏

主催：公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団

共催：雲南市・雲南市教育委員会

後援：鉄の道文化圏推進協議会、雲南市たたらプロジェクト会議、吉田地区振興協議会、
一般社団法人日本鉄鋼協会

参加人数：約50人

事業費：菅谷たたら山内活用事業補助金



開催趣旨：

菅谷たたら山内総合文化調査は、弊財団主導のもと、雲南市教育委員会様からの補助金を受けて、平成29年度から調査研究を継続してきたもの。本講演会では、これまでの調査成果として、令和4年度に刊行した最新の調査報告書に基づき、新たな「菅谷たたら山内像」を報告する講演会となった。講演者は、高橋誠二氏、梶谷光弘氏、新野邊幸市氏の3名の方にご講演いただいた。

午後は「たたら塾」の一環で、伝道師検定対策講座①「観光ガイド伝授講座」を開催し、たたら文化伝道師検定公式テキスト『雲南のたたら文化』をガイドに生かす方法の講演会を行った。

調査内容を、雲南市民内外の文化財愛好者・調査研究者に向けて広く報告・還元することで、菅谷たたら山内やたたら文化（たたら文化伝道師検定や近代たたら操業など）への興味や関心に結びつけることができた。

開催内容：

＜午前：鉄の歴史村の講演会＞

- ・高橋誠二氏（雲南市教育委員会文化財課 主幹）「菅谷たたら山内「山内祠」の奉納品について」
- ・梶谷光弘氏(元公益財団法人いづも財団 事務局次長)「在村医のオランダ医学修得について」
- ・新野邊幸市氏（松江工高専機械工学科 教授）「近代たたら操業で得られた鋳塊の組織観察」

＜午後：たたら塾」第5回 伝道師検定対策講座①「観光ガイド伝授講座」＞

- ・鳥谷智文氏（松江工業高等専門学校人文科学科 教授 「吉田のまちなみ」
- ・角田徳幸氏（雲南市教育委員会文化財課 課長）「菅谷たたら山内を学ぶ」

② 博物館講座：「たたら塾」

＜たたら塾 地域学部会＞

- ・地域の人たちとともに、文化財研究活動を展開する。活動内容：民具整理など。

<たたら塾 サポート部会>

・博物館事業に関するサポーターをボランティア活動員として募集し、生涯学習や自己研鑽の場としての活用を期待する。たたら文化伝道師検定合格者の参加枠。

●たたら塾活動一覧

回数	開催日	曜日	時間	イベント名	会場	概要・目的	参加者 数 一般	参加者 数 関係者
第1回	7/21	金	10:00～ 12:00	交流会	雲南市吉田健康福祉センター	たたら塾の趣旨説明 塾生同士の意見交換	19	5
第2回	8/11	金	10:00～ 15:00	ガイドを体験してみよう①	菅谷たたら山内	菅谷たたら山内のガイド体験	4	1
第3回	8/29	火	10:00～ 12:00	たたら製鉄に関する講義	雲南市吉田健康福祉センター	(講師) 雲南市文化財課 角田徳幸課長 (内容) たたら製鉄像を見直す	15	5
			13:30～	博物館ギャラリートーク	鉄の歴史博物館	(講師) 財団職員 (内容) 鉄の歴史博物館での解説案内	8	1
第4回	9/9	土	8:30～ 13:00	バス研修会	奥出雲たたらと刀剣館	(講師) 小林日本刀鍛錬場 小林俊司様 奥出雲町 佐伯行信様	13	3
第5回	10/14	土	10:00～ 12:00	鉄の歴史村の講演会	雲南市吉田健康福祉センター	菅谷たたら山内や、たたら文化研究の最前線	30	5
			13:30～ 15:30	伝道師検定対策講座① 「観光ガイド伝授講座」		(講師) 雲南市文化財課 角田徳幸課長 松江高専 鳥谷智文教授 (内容) 『雲南のたたら文化』をガイ活用法伝授	30	5
第6回	11/17	金		ガイドを体験してみよう②	菅谷たたら山内	菅谷たたら山内の解説案内	7	2
第7回	11/22～ 11/26	水～日		近代たたら操業体験(準備～操業まで)	雲南市和鋼生産たたら体験交流施設	近代たたら操業の体験(事前準備なども)。	20	0

第8回	1/28	日	午前中	文化財整理体験①	鉄の歴史博物館	(講師) 財団職員 (内容) 収蔵品整理業務	6	1
第9回	2/8	木	10:00~ 12:00	伝道師検定対策講座② 「試験対策講座」	雲南市吉田健康福祉センター	(講師) 雲南市文化財課 角田徳幸課長 松江高専 鳥谷智文教授 (内容) 伝道師検定の直前対策講座	20	2
			13:30~	文化財整理体験②	鉄の歴史博物館	(講師) 財団職員 (内容) 収蔵品整理業務	8	1
第10回	3/16	土	午前中	令和5年度たたら文化伝道師検定	チェリヴァホール		49	4
							229人	35人

1 たたら塾 第1回交流会（7月）

令和5年度から始まる「たたら塾」の第1回目のイベントとして、昨年度のたたら文化伝道師検定受験者を対象にした交流会を実施した。

当日の内容：

- ・これから始まる「たたら塾」とは？、令和5年度の「たたら塾」活動スケジュール等
- ・意見交換会（交流会：テーマに沿って、グループディスカッション）

実施日：令和5年7月21日（金） 会場：雲南市吉田健康福祉センター

参加者：19名

後援：雲南市

実施後の成果：

これまで個人でたたら文化について調べていた方、奥出雲町のたたらガイドの会に所属している方、近代たたら操業に興味のある方などが一堂に会して情報交換する場となり、横のつながりを形成する良い機会となり、今後財団で進めていく「たたら塾」のキックオフとしては良い出だしとなった。アンケートの結果では、68%の方に満足・やや満足の評価をいただいた。



2 バス研修会（9月）

ガイド研修の一環として、奥出雲町たたらと刀剣館の見学を行った。奥出雲町職員で、たたらと刀剣館の団体ガイドを担当されている佐伯行信氏に展示説明を、小林俊司刀匠に特別に鍛錬実演をしていただいた。

実施日：令和5年9月9日（土） 会場：奥出雲町たたらと刀剣館

参加者：13名

実施後の成果：

ガイド研修を行うとともに、鍛錬見学では刀鍛冶による玉鋼の鍛え方の実演だけでなく、小林刀匠の家が刀匠職の家になる前までは大鍛冶をしていた家でもあるため、できあがった鉤から包丁鉄などの鋼材をどのように作っていたかという話を伺った。たたら文化のうち、操業部分がクローズアップされがちだが、その後の大鍛冶がどれほど重要なプロセスかということを知ってもらう良い機会となった。アンケートの結果では、68%の方に満足・やや満足の評価をいただいた。

当日写真：



3 たたら伝道師検定

雲南市では「たたら」の歴史、文化の魅力や価値を市民とともに再確認し、共有することで、シビックプライド（文化に対する愛着や誇り）を醸成することを目的として、たたら文化を伝え広げていく「人」を育成するため、「たたら文化伝道師」認定制度に取り組むことになった。

令和4年度にプレ検定試験を実施したところ、多くの受験者の方々にご参加いただけたので、今後もこの流れを継続していきたいと考えている。

試験実施日：令和6年3月16日（土）

試験会場：チェリヴァホール（島根県雲南市木次町里方55）3F 大会議室

受験料金：初級受験料2,000円

試験範囲：

- ・試験は「初級」、「上級」の区分を設定。ただし、令和5年度は「初級」のみ実施し、令和6年度以降に初級合格者は上級の受験資格を有することになる。
- ・出題範囲：『雲南のたたら文化』及び、鉄の歴史博物館展示、「和鋼風土記」の映像から出題。
- ・試験時間等：【初級】60分で50問を回答。正答が60%以上で合格（認定）。
- ・協力団体：

主催：雲南市たたらプロジェクト会議（ただし検定事務局（実質的な運営）は財団）

共催：雲南市・雲南市教育委員会、後援：鉄の道文化圏推進協議会

<実施後の成果・所感>

- ・現在採点の途中ですが、49名受験中、合格（30問以上正答）は21名（合格率：42.8%）。

・雲南市民だけでなく県内・県外にも広く広報した関係で、雲南市外の方々にも多く受験いただくことができ、雲南の「たたら文化」を広く普及することにつながった。

(受験者49名中(市内:20名、県内他市町村:22名、県外:7名))



報道記録:

朝日新聞デジタル > 記事

たたら製鉄「伝道師」初の試験 49人挑戦、合格者のSNS発信期待

石川和彦 2024年3月17日 10時15分



検定試験に臨む人たち=2024年3月16日、島根県雲南市木次町里方のチェリヴァホール、石川和彦撮影



第1回たたら文化 伝道師 検定の初級試験が16日、島根県雲南市木次町里方のチェリヴァホールであった。市内外から49人が受験し、たたら製鉄に関する5者択一式の問題50問に挑んだ。30問以上正解すれば合格で、後日発表される。

検定は、日本古来のたたら製鉄に関する文化を語り継ぐ人材の発掘と育成を目指し、雲南市たたらプロジェクト会議(会長=石飛厚志市長)が計画した。昨年1月にも実施したがプレ試験という位置づけで、今回が正式試験の初回になる。

③ 学芸員実習

帝京大学より年度中に急遽依頼があり、刀剣に興味がある学生1名の博物館実習を下記のとおり受け入れを行い、その一環で田部清蔵氏の蔵書受入れ業務も行った（(5) 調査研究・資料収集を参照）。

受入期間：8/27～9/3

受入内容：たたら塾開催イベント（講演会、ガイド講座）への参加、博物館業務体験、田部清蔵氏蔵書の運搬・整理業務など。



④ 出前講座等（職員出向）

【ラジオ】

- ・ラジオ関西「しまねの国からこんにちは」9月25日：鉄の歴史村及び近代たたら操業のPR
- ・BSSラジオ「今ね！しまね推し！」1月12日：たたら文化伝道師検定及びたたら文化のPR

【Youtube】

- ・Traditionally Made Japanese Steel: Tamahagane <11月近代たたら操業の映像+インタビュー>

<出前事業>

【出前講演・授業】

- ・綾歌神社総代会（香川県）、7月9日「たたら製鉄」の歴史と技術～雲南市を中心に～」
- ・フェリシモ つらなり座#69、9月14日「世界で唯一「たたら」の炎が燃える～菅谷たたら山内と千年の鉄づくり～」
- ・上越教育大学附属中学校（新潟県）、10月17日「タタラ文化を民俗学的に考える」
- ・上越教育大学附属中学校（新潟県）、10月21日「テルミット反応の公開授業」
- ・出雲市高松地区寿会、11月8日「たたら製鉄」とは何か？」

3) 体験事業等（指定管理）

① 近代たたら操業の実績

（ア）雲南市観光協会のたたら吹き（9月）<共催>

三条市・日本鍛冶学会によるたたら操業が急遽中止となったため、雲南市観光協会様、及び雲南市役所様で操業を行っていただいた。鉤出しの際は、同時並行で進んでいた日本遺産モデルツアー下見の一行に見学に来ていただいた。

1 実施日：令和5年9月30日（土）～10月1日（日）

2 工程、状況：

令和5年8～9月から土採り、土の乾燥作業、土ふるいの作業を始め、並行して砂鉄の準備、薪の準備を始めた（当事業団による作業）。

9月27日（水） 灰すらし6回、土団子づくり

28日（木） 中釜づくり、土張り、炉の乾燥

29日（金） 上釜設置、炭切り作業

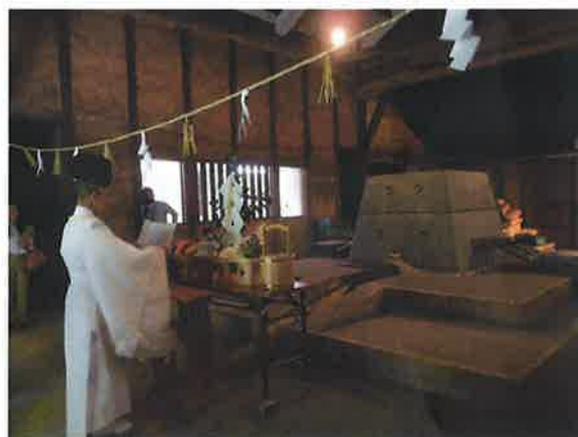
30日（土） 安全祈願、火入れ

10月 1日（日） 鋤出し

3 参加者の状況：財団職員、雲南市観光協会、雲南市

4 材料の数量、鋤の重量：木炭—650kg、砂鉄—500kg、鋤重量—70kg

5 写真：準備の様子、操業の様子



6 報道記録：Youtuber による、操業動画の Youtube 配信



● Youtube チャンネル：Life Where I'm From

「Making Traditional Japanese Steel (Tamahagane)」

https://www.youtube.com/watch?v=95ZT_opuaSA

岡本事務局長、小林研究員が解説に参加。



(イ) 田部家のたたら吹き (10月)

1 実施日：令和5年10月28日(土)～10月29日(日)

2 工程、状況：

令和5年9月初旬から土採り、土の乾燥作業、土ふるいの作業を始め、並行して砂鉄の準備、薪の準備を始めた。(当事業団による作業)

10月25日(水) 土づくり、灰すらし3回

灰すらし3回、土団子づくり

元釜・中釜設置、土張り、炉の乾燥

26日(木) 上釜設置、炭切り作業

27日(金) 炭切り、羽口確認

28日(土) 安全祈願、火入れ

29日(日) 鋤出し

- 3 **参加者の状況**：たなべたたらの里プロジェクト参加者約20名
- 4 **材料の数量、鋤の重量**：木炭—750kg、砂鉄—614kg、鋤重量—84kg
- 5 **写真**：準備の様子、操業の様子



6 **報道記録①**：新聞報道（山陰中央新報 令和5年10月29日（日））

優勝した義平

伝統の炎 たたら吹き 雲南・田部家

江戸時代、松江藩の鉄師を務めた田部家による古代製鉄、たたら吹きが28日、雲南市吉田町吉田、市和鋼生産たたら体験交流施設で始まった。

たたらによる里づくりに取り組む企業「たなべたたらの里」が操業する。田部家当主の田部長右衛門さん(44)が里長を務める。

一般参加者21人を前に田部さんは「たたら操業だけでなく、他の産業とミックスしながら島根の中山間地を盛り上げていきたい」とあいさつした。

伝統の製鉄炉に火入れし、社員と一般参加者が翌朝まで砂鉄と木炭を交互に入れる作業を続ける。夜も操業し29日、砂鉄が溶けてできた鉄の塊を取り出す「鋤出し」を

たたら製鉄が始まり、炉に砂鉄を入れる社員（左）—雲南市吉田町吉田、市和鋼生産たたら体験交流施設



する。操業1回に例年、木炭を700～800*、砂鉄を500～600*使う。

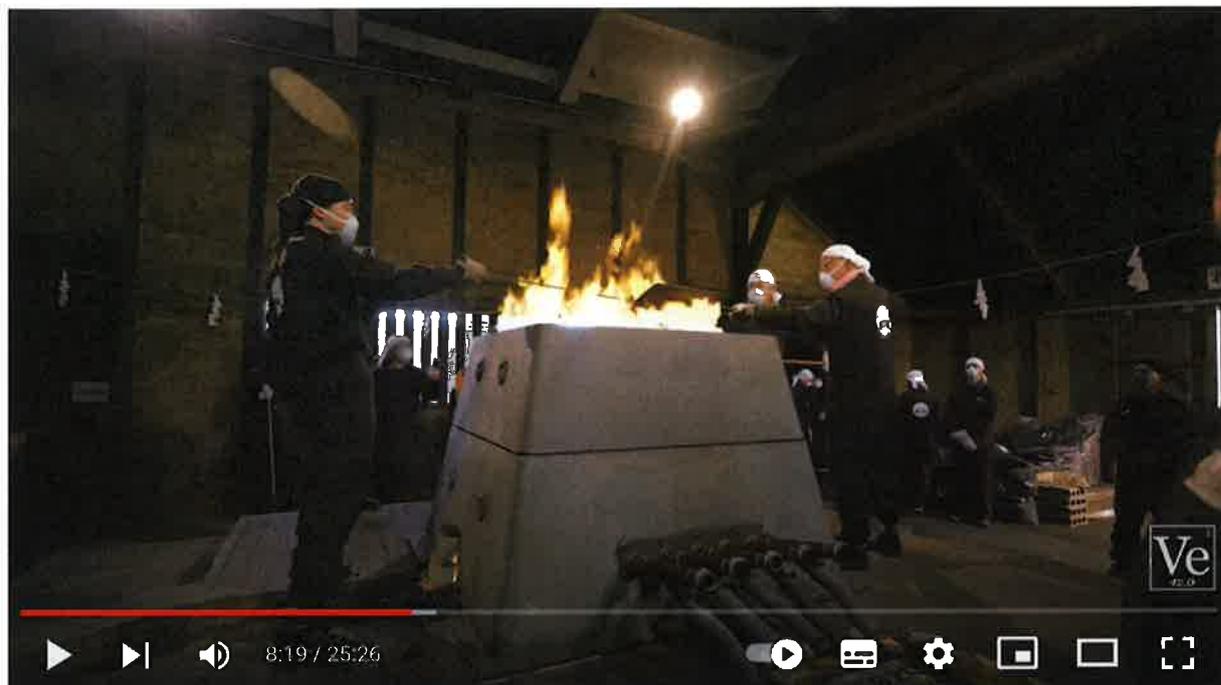
たたら製鉄により出来上がった鉄は、刃物やゴルフ用パターに加工して販売する。
(狩野樹理)

報道記録②：Youtuber による、操業動画の Youtube 配信

● Youtube チャンネル：Veritasium

「How The Most Expensive Swords In The World Are Made」

<https://www.youtube.com/watch?v=Tt6WQYtefXA>



(ウ)財団主催のたたら吹き（11月）

国産砂鉄枯渇の問題に対処すべく、近代たたら炉で輸入砂鉄を使って鋳が形成できるかという実験操業を行った。操業は(株)吉田ふるさと村と共同で行い、たたら塾生にも、事前準備・操業当日も大変お世話になった。補助金獲得については、5)③(オ)参照。

1 実施日：令和5年11月25日(土)～11月26日(日)

2 工程、状況：

令和5年10月初旬から土採り、土の乾燥作業、土ふるいの作業を始め、並行して砂鉄の準備、薪の準備を始めた。(当事業団による作業)

- 11月22日(水) 土づくり、灰すらし3回
- 23日(木) 灰すらし3回、土団子づくり
元釜・中釜設置、土張り、炉の乾燥
- 24日(金) 上釜設置、炭切り作業
- 25日(土) 安全祈願、火入れ
- 26日(日) 鋳出し

3 参加者の状況：たたら塾生、吉田ふるさと村募集の参加者約20名

4 材料の数量、鍋の重量：木炭—750kg、砂鉄—国産106kg、南アフリカ産552kg

(100%南アフリカ砂鉄に対して5%の真砂土を混入)

鍋重量—114kg、底鉄重量—32kg

5 写真：準備の様子、操業の様子



6 報道記録：動画作成

吉田町在住の動画クリエイターの中瀬優佳氏に、操業手順の動画作成依頼。
令和6年度より、鉄の歴史博物館内で放映予定。



② 小たたら操業

(ア) 永田式小だたら操業（6月）〈財団と共催〉

1 実施日：令和5年6月11日（日） 和鋼生産たたら体験交流施設

2 工程、状況：

上記操業前日までに、財団職員が、和鋼施設に耐火煉瓦・砂鉄をはじめとした操業用具を設置するとともに、操業後は、上記資材の撤去や、操業後のクリーニングを財団職員が行った。参加者は操業当日に操業をするのみ。

6月11日（日） 炉づくり、炭切り作業、操業、鋳出し（1基で操業）

（永田和宏氏指導の下、参加者のみで操業）

3 参加者の状況：約20名（出雲市内の中学生含）

4 材料の数量、鋳の重量：木炭—70kg、砂鉄—20kg、鋳重量—3kg + 1.5kg

5 写真：準備の様子、操業の様子



6 報道記録：新聞報道（山陰中央新報 令和5年6月22日（木））

伝統的な製鉄方法「たたら製鉄」を生かし、子どもたちがものづくりを学ぶきっかけをつくらうと、学識経験者などの関係者有志が任意団体「ものづくり教育たたら島根」（会長・永田和宏東京工業大名誉教授）を立ち上げた。簡易式の炉を使った体験で県内外の児童、生徒がたたら操業に触れ、将来的な理系人材の発掘・育成にもつなげる。

たたら生かし人材育成 有志団体が「学校」設立

鉄冶の指導者養成に向けた「たたら鍛冶学校」を定期的に実施し、複数回の実技と座学を踏まえ、一定の技術を習得した人を「たたら師」として認定する。

このほか学校と連携した「ものづくり教室」も開く。永田会長が考案した、耐熱れんがと「コンクリートブロック」を用いた炉を使用。より短時間で鉄ができる利点を生かし、1日で工程を味

今春、島根大に工学系新学部「材料工ネルギー学部」が誕生したことから、理系人材のニーズがより高まっていくことを想定しており、事務局の矢野俊入さんは「小学校から大学まで連携した人材育成が今後は必要になる。その基盤の一つになりたい」と話している。

（白染 節）

今月10、11両日に鉄の歴史村地域振興事業団（雲南市吉田町）と共催で、吉田交流センターや鉄の歴史村を会場にしたたら鍛冶学校を開催。斐川西中学校の生徒と教員が参加した。

立ち上げた。簡易式の炉を使った体験で県内外の児童、生徒がたたら操業に触れ、将来的な理系人材の発掘・育成にもつなげる。

鉄冶の指導者養成に向けた「たたら鍛冶学校」を定期的に実施し、複数回の実技と座学を踏まえ、一定の技術を習得した人を「たたら師」として認定する。

このほか学校と連携した「ものづくり教室」も開く。永田会長が考案した、耐熱れんがと「コンクリートブロック」を用いた炉を使用。より短時間で鉄ができる利点を生かし、1日で工程を味

今春、島根大に工学系新学部「材料工ネルギー学部」が誕生したことから、理系人材のニーズがより高まっていくことを想定しており、事務局の矢野俊入さんは「小学校から大学まで連携した人材育成が今後は必要になる。その基盤の一つになりたい」と話している。

（白染 節）

イベントでたたら製鉄を体験する参加者—雲南市吉田町吉田、鉄の歴史村

(イ)松江工業高校小だたら操業（7月）

松江工業高校定時制の授業の一環で、炉内に土を貼った形での操業体験を行った（工業高校では、これまで炉内に土を貼らない永田式小をだたらは実施済）。松江工業高校から操業指導の依頼があり、松江工業高校に資材一式を運んで操業した。

- 1 実施日：令和5年7月13（木）～14日（金） 会場：松江工業高校
- 2 工程、状況：7月13日（木）炉づくり、炭切り作業、7月14日（金）操業、鋳出し
- 3 参加者の状況：9名（松江工業高校学生）
- 4 材料の数量、鋳の重量：木炭一約40.5kg、砂鉄一約20kg、鋳重量一2kg
- 5 写真：準備の様子、操業の様子



6 報道記録：新聞報道（山陰中央新報 令和5年7月17日（月））

山陰中央新報 令和5年7月17日（月）

**先人の技術と苦勞体感
松江工高でミニだたら**

松江工業高校定時制課程 全組で参加。伝統工芸の生きたけが、松江工業高校で体験。市定時制4年目の授業で、3、4年生の約40人が、先人の技術と苦勞体感を体験。松江工業高校の定時制課程で、先人の技術と苦勞体感を体験。松江工業高校の定時制課程で、先人の技術と苦勞体感を体験。

松江工業高校定時制課程 全組で参加。伝統工芸の生きたけが、松江工業高校で体験。市定時制4年目の授業で、3、4年生の約40人が、先人の技術と苦勞体感を体験。松江工業高校の定時制課程で、先人の技術と苦勞体感を体験。松江工業高校の定時制課程で、先人の技術と苦勞体感を体験。

松江工業高校定時制課程 全組で参加。伝統工芸の生きたけが、松江工業高校で体験。市定時制4年目の授業で、3、4年生の約40人が、先人の技術と苦勞体感を体験。松江工業高校の定時制課程で、先人の技術と苦勞体感を体験。松江工業高校の定時制課程で、先人の技術と苦勞体感を体験。

(ウ) 永田式小だたら操業（11月） <財団と共催>

1 実施日：令和5年11月8日（水） 会場：松江南高校

2 工程、状況：

11月8日（水） 炉づくり、炭切り作業、操業、鋳出し（永田氏指導による）

3 参加者の状況：約30名

4 材料の数量、鋳の重量：実施団体からの情報提供なし。詳細は不明。

木炭—約30kg（詳細不明）、砂鉄—約20kg（詳細不明）

鋳重量—不明

5 報道記録：新聞報道（山陰中央新報 令和5年11月11日）



(工) 永田式小だたら操業（3月） <財団と共催>

1 実施日：令和6年3月10日（日） 会場：和鋼生産たたら体験交流施設

2 工程、状況：

上記操業前日までに、財団職員が、和鋼施設に耐火煉瓦・砂鉄をはじめとした操業用具を設置するとともに、操業後は、上記資材の撤去や、操業後のクリーニングを財団職員が行った。参加者は操業当日に操業をするのみ。

3月10日（日） 炉づくり、炭切り作業、操業、鋳出し（1基で操業）（永田和宏氏指導の下、参加者のみで操業）

3 参加者の状況：約20名

4 材料の数量、鋳の重量：木炭—28kg、砂鉄—20kg、鋳重量—約2kg

5 写真：準備の様子、操業の様子



③ ペーパーナイフづくり体験、和鋼小刀づくり体験

- ・このうち、ペーパーナイフづくり体験は、「しまね家庭の日」毎月第3日曜日は、家族連れのうち、1名無料とした。
- ・R5年度に受け入れ可能日を掲示しており、日程調整がよりスムーズになった。
ペーパーナイフ：119名（内、侍ペーパーナイフ37名）、小刀づくり：2名
（ペーパーナイフ実績 令和4年度：76名、令和3年度：50名、令和2年度：61名）

④ 写生大会プラス

対象：小中学生、期日：8月4日（金）
 会場：菅谷たたら山内
 講師：高橋先生（三刀屋高校、美術）
 内容：写生、ミニミニたたら体験
 共催：わくわく教室（雲南市文化体育施設利用
 放課後子ども教室実行委員会）
 参加：3名

雲南市PTA連合会助成プログラム 写生大会プラス

要申込 定員20名・先着順・8/1(火)締切 **小中**

8/4(金) 12:30～ 菅谷たたら山内

たたらで文化財を描こう。子供向け文化財解説とミニミニたたら体験も有り。家族用休憩スペース設置。

●申込先：チェリヴァホール
 ●参加費：無料
 （雲南市外の方は500円）

●持ってくるもの：
 水彩絵の具セット、
 筆記具、メモ帳、
 ビックリッシート、水筒

1

⑤ 炭焼き体験

炭焼き体験ができるかを検討した

- ・協議日時 6月30日(金)午後2時～
- ・会場 財団事務所
- ・参加者 舟木海(フォレストラボ)、陰山代表理事、他財団職員
- ・協議結果

舟木氏と財団でやれそうなことを協議。

継続的のマンパワー確保が必須だが見通しが無い。その策がない限り、事業見通しが立ちにくい状況を確認した。

下記は舟木氏による事業イメージ(案)。



・育成プログラムの実施
(フォレストラボ)

・薪炭材の調達

・
・
・

①炭焼きの人材育成プログラム構築

- ・適正な材の見分け ・伐採、搬出
- ・炭焼き工程 ・薪炭材林(広葉樹林)の特性

など

②利用可能な炭焼き窯の確保

- ・炭焼き窯の所有者との関係形成
- ・窯の位置のマッピング
- ・状態やサイズ感の保存

③炭の品質の向上

- ・回数を重ねる ・データの収集、蓄積

鉄の歴史村

・育成プログラムのサポート

・たたら用炭のデータ蓄積
(マツ材→雑材 など)

・
・

・(炭の購入)

上記一切を受け、財団ではR6年度の雑炭小たたら操業を通して、雑炭のたたら炭としての利用実態データを得る運びとなった。

継続的のマンパワーの確保の策がない限り、事業見通しの立ちにくい状況がある。

4) 表彰・コンクール

Instagramを活用したハッシュタグイベントを開催した。

タイトル:「#鉄歴写真部 R601」

募集期間:令和6年1月4日(木)～2月11日(日)

開催内容:吉田の町やたたら、鉄の文化に関する「イチオシ」を撮影したものを、インスタ投稿という形で募った。優秀作品は、3月1日以降、鉄の歴史博物館にて掲示した。

■優秀賞

アカウント名：dollmaker_yoko 様

記念品 侍ペーパーナイフづくり 1名様無料体験（有効期限 2024年12月28日）



今年も開催！
ハッシュタグイベント
「#鉄歴写真部R601」

あなたの「イチオシ」を
見つけて、撮って、
Instagramに
投稿してみよう！

募集期間
令和6年1月4日～
2月11日

応募方法

STEP1. Instagramで「(公財) 鉄の歴史村地域振興事業団 (zaitetsu@yume.ne.jp)」を
フォローする。

STEP2. これぞ！というイチオシを思い浮かべて、みつけて。
対象地域：養馬市古田町とその周辺地域
対象対象：文化財・食・大たら・風景・自然・建物・動物・働く人・遊べる・行事など
※あなたが「見たいモノ・撮りたいモノ」をキーワードに検索

STEP3. 「これぞイチオシ」をつけてInstagramに投稿。
※投稿時、投稿のインスタも見て、「いいね」しあおう。

募集要項詳細 > <http://www.zaitetsu@yume.ne.jp>

鐵 <お期合共>
公益財団法人
鉄の歴史村地域振興事業団
zaitetsu@yume.ne.jp
〒690-2801 鳥取県倉吉市古田町古田892番地1
TEL:0854-74-0311

5) 調査研究・資料収集

① 菅谷たたら山内とその周辺におけるたたら製鉄の比較研究

調査内容を報告書として刊行した

刊行物：『菅谷たたら山内総合文化調査報告書 5』

刊行年月：2024年3月 部数：300

調査者兼執筆者：角田徳幸氏、鳥谷智文氏、新野邊幸一氏、
高橋誠二氏、岩城こよみ

報告書印刷等は（有）松陽印刷に委託した。

菅谷たたら山内
総合文化調査報告書 5

2024年3月

公益財団法人 鉄の歴史村地域振興事業団

② 鉄の歴史博物館の展示替え

調査研究体制を整え、館の展示替えを行うとともに、収蔵品の調査、目録を再作成した。

③ 文化財の蒐集・受け入れと整理

1. 堀江修氏所蔵「金屋子神とその付属品」：寄贈、4月16日
2. 角田徳幸氏蔵書1点『砂鉄採取法』：寄贈、8月31日
3. 天津貴志氏所蔵「昭和44年復元操業時の底銚」一式：寄贈、11月3日
4. 岩田泰隆氏所蔵「クラ」1点：寄贈、1月17日
5. 「杉戸神楽道具一式」：寄贈、1月17日
6. 山本重明氏所蔵「糸繰り機（座繰り機）」1点：寄贈、1月28日
7. 稲わら工房からの藁細工関連民具一式の移管
8. 田部清蔵氏の蔵書等資料一式受入：搬出と搬入は済んだ。現在、点数確認中。R6年度中に寄贈の手続きに入る（整理業務については、博物館実習のページ参照）。
9. 大澤正己氏の旧蔵書の整理作業（島根県立大学生と協働）

令和4年度末に受け入れた大澤正己氏の蔵書について、令和6年3月6日に島根県立大学松江キャンパスの学生図書委員のイベントとして蔵書整理作業を実施いただいた。

（学生11名、教職員2名の13名が参加）

・実施内容：

書籍の箱出し、市町村ごとに分類、台帳への入力作業、窪田文庫全体の並び替え（配架スペース確保）をし、空いたスペースへの配架作業を行った。



④ たたら唄の資料収集と調査

CD-R の音声データを確認中

⑤ 歴史文化活動に関する助成金申請

調査研究、資料収集に必要な事業費を見込み、助成金の申請を行った。

補助金申請先機関：島根経済文化振興会

交付額：50 万円、内容：11 月の財団主催たたら操業の事業費として

⑥ 調査協力・取材協力

合計 31 件

菅谷たたら山内及び鉄の歴史博物館：7 件

内訳) 写真撮影 5 件 映像撮影 2 件

菅谷たたら山内：14 件

内訳) 写真撮影 6 件 映像撮影 6 件 資料掲載許可 2 件

鉄の歴史博物：7 件

内訳) 写真撮影 2 件 映像撮影 2 件 資料調査 1 件 資料調査 1 件 資料借用 1 件

雲南市和鋼生産たたら体験交流施設・鍛冶工房・菅谷たたら山内：1 件

内訳) 写真撮影 1 件

和鋼生産たたら体験交流施設：2 件

内訳) 写真撮影 1 件 施設利用 1 件

収益事業 博物館等公開展示施設における商品の販売

1) オリジナル商品の開発、販売

- ・「財団鍛冶職人謹製ペーパーナイフ」販売準備
- ・「菅谷高殿」販売開始。81 冊販売
- ・「ハガネピース」「ハガネピック」の販売開始
「ハガネピース」77 個販売、「ハガネピック」12 個販売

2) 受託商品販売

- ・令和 6 年度販売開始商品の準備
(手ぬぐい(鐵)、内藤伸手ぬぐい、子安観音のお札・お守り)

3) たたら文化伝道師検定

- ・検定テキスト「雲南のたたら文化」販売開始。48 冊販売

管理部門

1) 賛助会員の確保と普及活動（令和6年3月末時点で個人95名、団体7団体）

- ① 会員募集　－　個人会員（年会費一口5,000円）、団体会員（年会費一口30,000円）
 - ・ 賛助会員にも「たたら塾」のお知らせを送付するとともに、鉄の歴史村の講演会の抄録集配布を行った。
- ② 賛助会誌　2回発行

2) 情報発信

<ホームページ>

ホームページとリンクするブログ、インスタグラム等へイベント情報・展示情報を逐次掲載した。

<SNS>

Instagram・ブログを主たる広報媒体としていたが、今年度よりX（旧Twitter）を導入し、広報活動を展開している。

<その他>

4月刊行の『まっふる松江・出雲』へ菅谷たたら山内・鉄の歴史博物館の情報を掲載した。また、様々なメディアへの菅谷たたら山内の写真掲載の対応も行った（出前講座のページ参照）。東京・大阪の島根県アンテナショップへたたら文化伝道師検定の地端・ポスターを送付した。

3) 理事会の開催

- ・ 開催時期：令和5年6月および令和6年3月
そのほか必要な場合に随時臨時理事会を開催
- ・ 主な決議事項：令和4年度事業報告及び収支決算の承認
令和6年度事業計画及び収支予算承認の件
その他法令又は定款で議決を必要とする事項

4) 評議員会の開催

- ・ 開催時期：令和5年6月および令和6年3月
そのほか必要な場合に随時臨時評議員会を開催
- ・ 主な決議事項：令和4年度事業報告及び収支決算の承認
令和6年度事業計画及び収支予算承認の件
その他法令又は定款で議決を必要とする事項

